



弘前大学同窓会報

第20号

発行日 平成31年3月1日
発行者 弘前大学同窓会
題字 吉田 豊 元学長

弘前大学創立以来の卒業生と全教職員、そして現在学生の皆さん、弘前大学創立七十周年を、共に心からお祝いを致します。そして、創立から今日まで、弘前大学を支持し支援してこられた地元をはじめとする関係各位に、深甚の敬意と感謝の意を表しましょう。弘前大学は、昭和二十四年に創立されて以来七



創立七十周年記念事業後援会
会長 遠藤正彦

この創立七十周年を機に

十年、他の新制大学には類を見ないほどの、苦難の道でした。新制大学の構成母体の内の二校の、青森県師範学校と青森医学専門学校は、第二次世界大戦時の青森市の空襲で全焼し弘前に移転して来たばかりで、固有の資源はほとんどありませんでした。創立当時から、既に大学間の資源格差があつたのです。そして母体となつた五校の協議による新制大学の方向性の決定は難航に難航を重ねました。これが長く尾を引いて、本学の発展を遅らせた原因の

一つになつたと思ひます。私が本学に入学した昭和三十三年、当時の文理学部（現人文社会科学部と理工学部の前身）は文京町の旧制弘前高等学校、設置されたばかりの農学部（現農学生命科学部の前身）は文京町の旧第八師団司令部、教育学部は弘前城址内の旧第八師団兵器倉庫と野辺地町の旧青森青年師範学校、医学部は在府町の旧朝陽小学校と附属病院は本町の旧弘前市立病院でした。いづれも老朽化した建物で、昭和三十七年、弘前城址内の教育学部校舎

遠藤正彦

が火災で焼失し、再建は不可能とまで言われました。他の新制大学に反して本学は、経済学部、工学部等の学部新設やキャンパス移転計画のどれも成功しませんでした。私は、以前文部科学省の高官から、「弘前大学は大学改革に最も遅れた大学の一つ」と言われたことがありました。それもそのはず、昭和四十年代全国を席巻した「大学紛争」において、本学の学園紛争の終結は遅れに遅れていました。その遅れたまま平成三年の「大学設置基準の大綱化」の大学内の再編成に直面し、本学は混乱し、教養部改組を含む学内再編はほとんど進みませんでした。この再編途上に、「国立

十年史」の刊行はもちろんのこと、キャンパスの整備を計画しています。中でも、六十周年記念事業として建てられた太宰治文学碑の周辺をさらに整備することで、太宰治小公園として学生、職員はもちろん、市民や観光客にも親しんでいただくことを目指したいと考えています。ここには、弘大カフェとして活用している旧制弘前高等学校外国人教師館が近接しており、これと併せた環境整備により、社会に開かれた弘前大学の姿をより一層明確にできればと願っています。引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今回も同窓会の皆様へ創立七十周年についてのご報告とお願いを申し上げます。改め、本年六月一日に予定されております記念式典に多くの方々のご参加をいただきますよう、また、七十周年記念事業のための募金にご協力を賜りますよう、この場を借りてお



創立七十周年記念事業運営委員長
弘前大学 佐藤 敬

創立七十周年を間近にして

方、現状は逆の方向に進んでいるように感じます。そんな中、弘前大学としても、できるだけ教育研究の成果を社会に発信して行かなければならないと念じています。本学が誇るべき最も大きな成果は人材輩出であり、卒業された皆さんが社会において大いに活躍しておられることが、弘前大学の七十年を支えてきた第一の要因であることに間違いありません。一例として、昨年六月の日本経済新聞の記事によると、一部上場企業および有力企

業へのアンケート調査の結果、弘前大学は、今後採用を増やしたい大学の一位にランクされています。本学を卒業された方々が、社会の多方面で活躍しておられることが明確に表れた結果だと考えています。その意味でも、創立七十周年記念事業としては、今後の十年間の教育研究に資する事業を中心に実施したいと考えております。具体的には、国際化の推進や学生支援の充実などが計画されています。また、創立六十周年と同様に、記念事業への学生の参画も積極的に実現していくこととしております。また、節目の事業として将来に残すべきものとしては、「弘前大学七

十年史」の刊行はもちろんのこと、キャンパスの整備を計画しています。中でも、六十周年記念事業として建てられた太宰治文学碑の周辺をさらに整備することで、太宰治小公園として学生、職員はもちろん、市民や観光客にも親しんでいただくことを目指したいと考えています。ここには、弘大カフェとして活用している旧制弘前高等学校外国人教師館が近接しており、これと併せた環境整備により、社会に開かれた弘前大学の姿をより一層明確にできればと願っています。引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

十年史」の刊行はもちろんのこと、キャンパスの整備を計画しています。中でも、六十周年記念事業として建てられた太宰治文学碑の周辺をさらに整備することで、太宰治小公園として学生、職員はもちろん、市民や観光客にも親しんでいただくことを目指したいと考えています。ここには、弘大カフェとして活用している旧制弘前高等学校外国人教師館が近接しており、これと併せた環境整備により、社会に開かれた弘前大学の姿をより一層明確にできればと願っています。引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

弘前大学創立70周年記念事業への募金のお願い

弘前大学創立70周年記念事業への募金を行っています（2019年12月まで）

個人の場合 1口5千円（できるだけ2口以上のご協力をお願いいたします）
法人等の場合 1口の金額は特に定めておりません
この寄附金は、税法上の優遇措置が受けられます

- | 主な事業 | 式典等祝賀行事 |
|-----------------------|---|
| 1 式典等祝賀行事 | <ul style="list-style-type: none"> ○記念式典、記念祝賀会
期日：2019年6月1日(土) ○記念講演会 ○記念コンサート |
| 2 70年史編纂 | |
| 3 記念小公園の整備 | |
| 4 国際交流事業 | |
| 5 学生参加事業 | |
| 6 将来の教育研究の向上に資する基金の設立 | |

お振込先 弘前大学基金
ゆうちょ銀行 弘前郵便局 当座 0119848
青森銀行 弘前支店 普通 3078615
みちのく銀行 弘前営業部 普通 2693447

【問合せ先】 国立大学法人弘前大学総務部総務広報課
TEL 0172-39-3009



事務局庁舎

教育学部



《評論》「童心」を捨て去ること

教育学部同窓会 副会長 奈良 年永 (昭和38年 中学校課程卒)

一人前の社会人となるうえで、もっとも大きな障害となるのが「童心」である。これさえ捨て去ることができれば、それだけで立派な人物になることができる。童心とは、「激しい競争心、人を見下す心、華美にあこがれる心、あせりいらだつ心、浮わついた心、名誉をほしがれる心、これらはすべて童心にほかならぬ」。

子どものスポーツ面や文化面での大なる活躍の受賞の様子が新聞等で報道され、うれしく拝見されます。ところがその写真に、子どもと一緒に校長が載っていることが多くあります。校長自身が私もといつて映ったわけではなく、取材関係者が校長先生もどうぞといつて映ったものだと思います。ましてやこの子どもの活動がレスリングや書道、絵画、将棋など教育課程外の活動によるものであるのに然りであります。市町村の首長や市町村教委に受賞を報告しその関係者と一緒の写真報道が間々あることから同様に考えた勘違いではないでしょうか。首長は選挙という住民の審判があるため極力露出を多くするわけですが、校長が学校の教育活動に直接関係のない場面で露出する必要がないわけです。これは「童心」そのものではないでしょうか。一方、校舎・ガラスなどへの損壊・いたずらなどの報道も間々あります。このとき校長のコメントがない場合が多く、教頭にコメントさせている場合が多いようです。コメントのある場合でも「いかに子どもの心を傷つけているものであるか分かってほしい」という訴えが殆どであります。犯行者は在校生や卒業生による行為であるにせよ、学校として校長としてどう対処すべきか。石を投げられない学校にしよう、など反省の材料があるはずですが、これも「童心」にほかなりません。難関校・有名校への合格者数を競い、「あれが私の教え子だ」などの常套文句が出たり、「東大一直線」などのスローガンを教室の正面に掲げるような進学教育一辺倒の普通高校のやり方は「童心」の最たるものです。また、



「弘前大学教育学部旧校舎跡地」記念樹・八重紅枝垂 (平成14年4月 植樹 弘前城跡三の丸ピクニック広場)

私信に学校の封筒を使うのも「童心」です。将が率先して礼を守ることによって兵士のやる気を高めることを『礼将』と言います。将が兵士と同じように、雨が降っても笠をかぶらない、冬でも毛皮を身につけない、夏には扇を使わないなど

紙上キャンパスツアー

(文京町キャンパス)



弘前散策の際は、学生時代の思い出を携えて、お気軽に文京町キャンパスにもお越しく下さい。上記の散策コースはいかがでしょう。

医学部医学科



弘前医科大学卒業後六十四年の回顧

弘前大学医学部副理事長 前理事長 石戸谷 忻一 (昭和29年 弘前医科大学卒)

弘前大学が二〇一九年に創立七十周年を迎える。心からお祝いを申しあげたい。私は一九五四(昭和二十九)年、弘前医科大学医学部三回生の卒業で、医学部同窓会では超古顔である。この卒業生が弘前大学医学部同窓会として六十年の歩みを報告したい。

弘前大学医学部医学科は太平洋戦争の末期、敗戦直前の一九四四(昭和十九)年、弘前医科大学医学部三回生の卒業で、医学部同窓会では超古顔である。この卒業生が弘前大学医学部同窓会として六十年の歩みを報告したい。

七名、重軽傷者二百八十二名、行方不明者八名(八月三日県知事報告)の被害であった。青森医専二年生の能登山繁君(旧制山形県立酒田中学校出身)が附属病院から大切な顕微鏡を手に持ち避難する際、直撃弾で亡くなった事は悲しい出来事であった。青森医専は開校一年にして廃校の運命にあった。しかしながら、教職員と医専学生の医専存続運動が忽然と起こった。青森医専が生きていく道は戦火を受けなかった弘前市への移転、そして大学昇格への運動であった。当然、弘前市への移転反対もあり、将来的には青森市に「青森国立医科大学(仮称)」の新構想があったという。移転した青森医専は不死鳥の如く蘇り弘前医科大学に昇格し、一九四九(昭和二十四)年、弘前大学は総合大学となり一九五一(昭和二十六年)弘前大学医学部開設が認可された。一九四〇(昭和十五年)年、旧制弘前高等学校を卒業し弘前医科大学へ入学した。当時は敗戦後の貧しい荒波がうねっていた。一九四三(一九四四)昭和十八(十九)年の戦時中に誕生した医専(国立系では、他に前橋医専、前橋医大、群馬大学など)は、その殆どが小学校や軍隊の跡地を使用していた。故に建物は大学とはいうには、誠にお粗末極まるもので、組織も創成期の昭和二十年代は学制変革による医専、医大、医学部と三種混合の大、医学部と三種混合の大、変わったものであった。一九五二(昭和二十七年)、同窓会を作ろうという空気が盛り上がり、学友会の米田正先生(医専一回生、昭和二十四年卒)を議長にして弘前大学医学部同窓会が結成された。医学部創立二十周年の総会の時、会員から同窓会館建設の意見が出た。運よく植田町にあった旧弘前医師会館と土地を手に入れる事ができた。不動産を取得した為、同窓会は一九六七(昭和四十二年)、民法第三十四条による「社団法人弘前大学医学部同窓会」という名称となり法人組織が許可された。この名称は、「莊子」逍遙遊篇より「鵬」を、弘前市が桜の名所との事から「桜」を選び命名された。二〇二二(平成三十四)年、法の改正により「社団法人弘前大学医学部同窓会」は「一般社団法人弘前大学医学部同窓会」と変更された。一九九四(平成六年)、医学部創立五十周年記念事業の一環として、「弘前大学医学部コミュニケーションセンター」(医学部会館)を医学部キャンパス近くに建設し、医学部に寄付した。全国の国立大学で医学部専属の会館を持つているのは珍しいと言われている。これも当時の吉田豊医学部長の熱意と同窓生の力を示したものである。弘前大学医学部同窓会員は現在四千六百六十五名で日本全国各地に居住している。

医学部保健学科

細胞検査士養成課程 八期生を迎えて



保健学科検査技術専攻
助教 吉岡 治彦
(昭和59年 医療技術短大卒)

私は昭和五十九年に弘前大学を卒業し弘前大学医学部附属病院中央検査部病理に勤務、その後、青森市民病院病理部を経て、平成二十二年四月より弘前大学大学院保健学研究科助教に就任し九年目となりました。現在の私の担当は、人体病理学実習、病理組織細胞検査学実習とともに細胞検査士養成課程での講義、演習、実習が中心です。そこで今回は弘前大学における細胞検査士養成課程の紹介、カリキュラム、実績を紹介するとともに、細胞検査士の役割について記していきたいと思っております。

平成二十一年四月、弘前大学医学部保健学科検査技術専攻に、群馬県以北唯一となる養成課程が開設されました。開設までの道のりには多くの方のお力があり、あらためて感謝を申し上げます。詳細は『細胞検査士会創立五十周年記念誌、第七章教育活動の歴史』に記載されていますのでご覧いただければ幸いです。平成三十年十月現在、専任教員は渡邊純教授、堀江香代助教と私の三名で担当し、学生は現四年生(七期生)六名、現三年生(八期生)七名が選

抜されています。養成課程のカリキュラムは三年次より開講していただきますので三年次編入生も履修できます。養成課程の学生は通常の検査技術科学専攻の講義・実習に加え、細胞診断学講義、演習が入り、一日五コマの授業時間枠がほとんど埋まってしまうくらい単位数を修得しなければなりません。四年次では細胞診断学実習を始め、さらに卒業研究・学会発表・卒論、就職活動、国家試験対策、細胞診断学検査士資格認定試験一次試験(筆記、画像問題)、十二月の二次試験(顕微鏡、標本作成技術)に臨むこととなります。

養成課程の課題として、実習標準の不足、選択科目非修了者の取り扱いは、学生の多忙な生活に伴う精神的な負担があります。その対策として青森県内外の病院、検査センター、外部講師から標本をお借りし顕微鏡実習の充実を図り、さらに貴重な症例はWhole Slide Imageとしてデータ保存して活用しています。養成課程では専用の研究室を設け、学生同士が協力して勉強や研究に専念し、日常リラックスして

過ごせる環境を整備しました。また、学生時代に非修了者であっても希望すれば卒業後にも勉強会などに受け入れるようにしています。養成課程の学生は月二回の弘前大学医学部附属病院病理部での細胞診症例検討会、月一回の婦人科病理カンファレンスに参加させていただき、臨床に即した実践的な経験を積んでおります。学生と教員が共に卒業研究でのディスカッション、学会参加をすることを心掛け、春には弘前公園で観桜会、夏には暑気払い、冬には雪まつりに参加し交流を深めています。

これまで卒業生三十八名全員が細胞検査士資格認定試験に合格をされました。卒業生は各職場において活躍し、全国学会発表や論文作成など積極的な活動をしています。細胞検査士の役割は細胞診断の能力を高め、患者さんの早期診断、早期治療に役立つ臨床検査を提供することです。本学養成課程の使命は、教育と研究を両立させることと、もちろんのこと、診断だけではなく現場で直面するであろう課題を自分で考え、解決することであると考えています。

現在八期生を迎え、一層、養成課程チームが協力し種々の課題を分かち合いながら、細胞検査士の地位向上や社会的貢献につながっていく学生を送りだしていきたいと思っております。

理学部では、三年前に改組を行い、六学科の編成を、数理解科学科・物理科学科・物質創成化学科・地球環境科学科・電子情報工学科・機械科学科・自然エネルギー学科としました。平成三十一年度には、新学科も四年目を迎

え、弘前大学のオープンキャンパスやサイエンスへの招待などの機会もあちろん、理学部二号館の開館時間であればいつでも自由に見ることが出来ます。ぜひ弘前大学を訪れた際には、国内最長のフーコーの振り子を見たいと思います。

スタート：正門

- 1: シュプリンゲン「飛翔」、スタンドグラス
- 2: 旧官立弘前高等学校在校生名簿碑
- 3: 旧官立弘前高等学校創立70周年記念碑「弘高生青春之像」
- 4: 初登頂の碑
- 5: 弘前大学の沿革、弘前大学五十年の歩み
- 6: 加藤謙一記念碑
- 7: 附属図書館(寄贈図書、弘前大学出版会書籍など)
- 8: 資料館
- 9: 旧官立弘前高等学校創立10周年記念碑、同40周年記念碑「虚空に羽ばたき碑」
- 10: ホレスト(食堂)、スコラム(2階レストラン)、サリジェ(コンビニ)、シェリア(お土産)
- 11: フーコーの振り子
- 12: 島善鄰先生顕彰碑、リンゴ見本園
- 13: 幸せのリング

ゴール：外国人教師館(弘大カフェ)



上記散策コースはひとつのおすすめコースです。他にも記念碑などがありますので、是非探してみてください。土日祝日に見学/利用できない場所がありますことご了承ください。

理工学部



新学科の卒業年度を迎えます

理工学研究科長 佐藤 裕之

理学部では、三年前に改組を行い、六学科の編成を、数理解科学科・物理科学科・物質創成化学科・地球環境科学科・電子情報工学科・機械科学科・自然エネルギー学科としました。平成三十一年度には、新学科も四年目を迎

え、弘前大学のオープンキャンパスやサイエンスへの招待などの機会もあちろん、理学部二号館の開館時間であればいつでも自由に見ることが出来ます。ぜひ弘前大学を訪れた際には、国内最長のフーコーの振り子を見たいと思います。

理学部では、三年前に改組を行い、六学科の編成を、数理解科学科・物理科学科・物質創成化学科・地球環境科学科・電子情報工学科・機械科学科・自然エネルギー学科としました。平成三十一年度には、新学科も四年目を迎

え、弘前大学のオープンキャンパスやサイエンスへの招待などの機会もあちろん、理学部二号館の開館時間であればいつでも自由に見ることが出来ます。ぜひ弘前大学を訪れた際には、国内最長のフーコーの振り子を見たいと思います。

え、弘前大学のオープンキャンパスやサイエンスへの招待などの機会もあちろん、理学部二号館の開館時間であればいつでも自由に見ることが出来ます。ぜひ弘前大学を訪れた際には、国内最長のフーコーの振り子を見たいと思います。

サイエンスパーク探訪

見守り続けてくださいますようお願いいたします。

理学部二号館の入り口を入ってすぐ右手に見えるのが、理学部サイエンスパークのフーコーの振り子です(本会報紙上キヤンパスツアーコース中の⑪)。振り子は建物の吹き抜け部分に設置され、全長四十五mは現在稼働している国内の振り子の中で最長です。平成二十(二〇〇八)年三月に設置され、昨年で設置十年を迎えました。

農学生命科学部



今改めて・弘前スローガン
「世界に発信し、地域と共に
創造する弘前大学」
に想いを馳せて
農学生命科学部同窓会
顧問 三上 実
(昭和42年 團芸農学科卒)

ありがとう弘前大学

日本における戦後教育の方針を明示することを狙いに、昭和二十二(一九四七)年に制定された「教育基本法」の主要方針の一つに「教育の機会均等」が掲げられております。ここでの「機会均等」とは、幼・小・中・高・大学及び社会教育をも含めた国民の教育を受ける機会均等・公平を謳っているものと理解されます。私事で恐縮ながら、こと大学進学にまつわる私の事情、環境は実家の家業と経済的制約から「通学圏域に弘前大学」という国立大学が無かりせば大学進学は諦めざるを得なかったものであります。とどのつまり、弘前大学が私の地元存在していたことが私にとっては真に天の啓示であり、卒業後、地元行政機関、又その後、民間分野で多くの方々共々、地域の振興・活性化に係る機会に恵まれましたのも過ぎし日の青春時代、弘前大学での四年間の礎があったればこそと今なお感謝の念、禁じ得ないものを覚えます。

弘前大学の沿革概要

私共の母校・弘前大学は昭和二十四(一九四九)年五月、旧制弘前高等学校、青森師範学校、青森医学専門学校等を母体に、文学部、教育学部、医学部の三学部で創立・開学しました。爾来、昭和三十(一九五五)年七月の農学部設置、平成九(一九九七)年十月の理学部の改組による農学生命科学部と理工学部の設置、更には平成十六(二〇〇四)年四月の国立から法人化による国立大学法人弘前大学の設置を経て迎えた現在は、学部は農学生命科学部を含めた五学部、大学院は農学生命科学研究科を含めた七研究科が設置されております。

の到来等により厳しい状況にあります。幸いにして弘前大学は、佐藤敬学長の陣頭指揮のもと「弘前大学将来ビジョン」において「地域活性化の拠点づくりを目標として」と銘打ち、大学の中枢業務である教育・研究の推進を礎にしつつ、地域連携・地域の活性化を図ることを重点課題と位置づけ積極的に取り組んでおられることに心強さを覚えます。

併せまして、小生がタイトルに掲げさせて戴いた「世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学」のスローガンを基軸として位置づけられます。仄聞するところによりますと、このスローガンは平成十一年度の創立五十年記念事業として当時の吉田豊学長のもとで制定され、その後、遠藤正彦学長、現・佐藤敬学長も継続し一貫して掲げられ、その方針のもとに実践し続けておりますが、このたびの七十周年を更なる契機に、その趣旨・目標の一層の推進が図られることを衷心よりご期待申し上げます。

「青森生まれの青森育ち」そんな私は地元の人でもっと青森を好きになれる話題を伝えたい！という思いのもと、今は念願だった青森放送局でキャスターとして働いています。青森には四季折々の風景や、季節ごとに入替わる旬のおいしい食材、何気なくバスの中で聞こえてくるどこか安心するお国ことばなど、良さがたくさんあります。地元の人にとっては当たり

人文社会科学部



青森の魅力伝えたい
NHK青森放送局キャスター
干葉 真由佳
(平成28年 現代社会課程社会行動コース卒)

「思いの代弁者として」キャスターは「ニュースを正しく、分かりやすく伝える仕事」です。これも重要なことですが、そのほかにも私がやりがいを感じているものがあります。そのひとつがリポート制作することです。リポート制作では、自らテーマを設定し、県内どこにでも取材に出かけます。そして撮影した映像とナレーション動画を組み立て、編集し、放送するというもの。最も伝えたいことを軸に何度も編集し、構成し直します。制作したリポートの放送は、夕方のニュース番組内の五分程のコーナー。五分という短い時間の中で、取材したものの素晴らしさと、人の思いや気持ちをギュッと詰めたのです。私はこれを「思いの代弁者」になることだと思っています。自分の足で現場に行き、見聞きしたものの感動を映像や言葉を通じて、見ている人にも感じてもらいたい。

このように、何かを伝える喜びや物事の切り口を探し出す力を培ったのは、弘前大学での学びがあったからだと感じています。在籍していた社会行動コースでは、社会調査を中心とした学習を行い、私が学生だったときは県内の農産物や加工品を扱う直売所の調査をしました。特に心に残っているのは野菜を出荷していた八十代の女性との会話です。直売所から遠い場所に住んでいるにも関わらず、白菜や漬物を自転車に積み、ほとんど毎日出荷しにきているとのこと。女性は、買った人の感想をメモに取り、収穫の時間を調整するなど工夫を常に考えており、商品はおいしいと人気です。丹精こめて育てた野菜を、新鮮なうちに食べてもらうことを生かしたいと言っていました。驚いたと同時に、高年齢になっても野菜作りに打ち込む姿や努力を人に伝えたいという気持ちをもちました。今もインタビューをする機会が多く、学生の時に学んだことが仕事に活かされているという事に幸せを感じています。

弘前大学 キャリアセンター



キャリアセンターとは
学生支援の内容

弘前大学には、学生の進路について専門的に支援する部署として「キャリアセンター」があります。キャリアセンターは、キャリア教育及び就職支援を通して本学学生の進路決定や生涯を通じた持続的な就業力の育成をより円滑に推進することを目的として平成二十八年四月に設置されました。石塚哉史キャリアセンター長(農学生命科学部教授)をはじめとする十名のスタッフが学生支援にあたっています。

学生支援の内容

キャリア教育、進路・就職相談、インターンシップ、就職ガイダンス、業界研究会や企業説明会等「キャリアセンター」がさまざまな支援を行っています。その中から、四つの支援をピックアップしてご紹介します。

一 自らの生き方を見つけ、実現する力を育成する
キャリア教育の取り組みを、社会全体の中で人生の在り方を見つけ、実現するための「生き方教育」と位置付けています。地域の活性化を支える

二進路・就職相談

専任のキャリアアドバイザー三名が、年間を通して千四百件の相談に対応しています。一年生から利用することができ、就職活動に向けて何をすればよいのか、という初步的な相談から、インターンシップ参加のための準備、採用試験に向けた面接練習やエントリーシート添削等、様々な相談に対応します。

三 就職ガイダンス
民間企業・公務員・教職といった志望分野別に年間約七十回のガイダンスを開催しています。就職活動のための一般的なガイダンスから、自己分

四 各種説明会

学内で開催する業界研究会や企業説明会その他、三月に「弘前大学の学生を是非採用したい！」という企業約二百社を全国から招いて就職ガイダンス

七十年の歴史を紡いで

七十年前の弘前はどんな状況だったのでしょうか。戦後間もない中、学生が学べる場所がどれだけ貴重で、そこで学ぶ学徒への期待もどれだけ大きかったか計り知れませんが、日本全体が苦しかった時代を駆け抜け、今では学びたい志を持つた人は自由に学べる環境にあります。学び舎を私たちの世代に残し、四年間育ててくれたこの地域、先生方、先輩方への感謝を忘れてはなりません。

札幌おとり会

北海道の旧制と新制一体の同窓会

会長 稲村 征紀



本会は北海道に居住している旧制弘前高等学校と弘前大学の卒業生が、会員相互の理解と親睦をはかる目的で設立されました。

当「札幌おとり会」は旧制と新制とが一体となつての同窓会です。小生は第七代目の会長職を仰せつかつておりますが、「札幌おとり会」の歴史の重みをひしひしと感じております。

総会は年一回七月に開催し、決算報告や予算案などを審議します。また懇親会は札幌雪祭りの雪像制作を眺めることの出来る二月上旬に開催しております。従つて年間二度皆さんが集まつております。場所は札幌のシンボルである札幌テレビ塔内のレストランです。

昭和二十四年に新制の大学が設置されておりますので、会員には旧制と新制の両方に在籍した方もおります。昭和四十年に文学部から改組した人文学部と理学部の他に、農学部も卒業生も多く入会しております。今後は平成二十八年に人文学部が人文社会学部へ改組されましたので、若い卒業生が入会されますことを切に願つております。



懇親会では、宮島幹事長(昭和五十九年人文学部卒)や役員への配慮とご努力によりクイズや福引、景品は弘前に縁のあるも

大 鵬 会

弘前大学は北海道の誇り

会長 森 徳男



我が母校、弘前大学が今年で創立七十周年を迎えることは、大鵬会にとりまして大きな喜びとするところであります。

弘前大学に入学する北海道出身者は毎年三割近くにも及んでいます。文化と歴史の薫り高く、人情味に溢れ、自然に恵まれた弘前の地、そして何よりも教育や研究に情熱を傾注し続ける弘前大学の教職員による支援など、豊富な地域の資源、知の資源の中で学んだ多くの卒業生が、広大な北海道

(昭和52年 理学部数学科卒)の津々浦々で地域の活性化と振興に向け、すばらしい活躍をされています。大学が掲げるスローガン「世界に発信し、地域と共に創造する」の「地域」は、私どもにとつてはまさに「北海道」を指すものと自負しています。

その意味でも、弘前大学の発展は北海道の繁栄に直結するものと確信するところであり、大鵬会として、より一層北海道高校教育の質的向上を図り、未来を切り拓くことのできる人材を弘前大



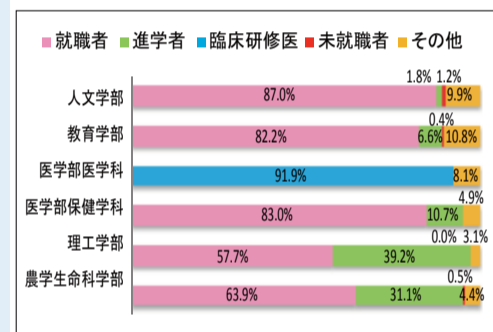
合同企業説明会

開催している合同企業説明会は、学生がさまざまな企業を知る機会となっております。

弘大生の就職

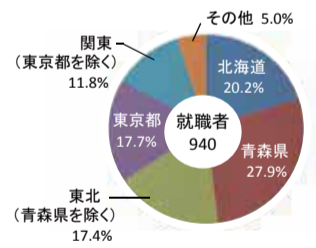
平成二十九年度の就職率は、全学で九九・一%でした。どの学部もコンスタントに九〇%台の実績をキープしています。本学における人材育成がさまざまな分野から高く評価されている証です。就職地域は、北海道と青森県で約五〇%を占めて

学部卒業生の進路状況 (H30.3卒)



学部	卒業生	就職希望者	就職者	未就職者	進学者	臨床研修医	その他
農学生命科学部	183	118	117	1	57	-	8
理工学部	286	165	165	0	112	-	9
医学部保健学科	206	174	171	3	22	-	10
医学部医学科	136	-	-	-	125	11	-
教育学部	241	199	198	1	16	-	26
人文学部	332	293	289	4	6	-	33
合計	1,384	949	940	9	213	125	97

学部卒業生の地域別就職状況



おり、弘前大学で育てた学生を新たな人材として地域に輩出することで、地域活性化の役割も果たしています。

「採用を増やしたい大学」第一位に選出され、「総合ランキング」において第二十一位にランクインすることができました。また、「価値ある大学二〇一九年版」就職力ランキング(「日経キャリアマガジン特別編集」において、側面別ランキング「獨創性」で八位、大学の取組ランキング「就職支援に熱心に取り組んでいる」で十位、「地域の産業・文化に貢献している」で二位に選ばれました。今回の高い評価を維持できるように、引き続きキャリア教育や就職支援の充実に取り組みまいります。

地域同窓会訪問の旅



創立七十周年記念事業後援会副会長 弘前大学同窓会会長 西澤 一治

弘前大学創立七十周年にむけて、私は七十周年記念事業後援会の副会長として、日本各地にある同窓会組織を廻り、事業の内容紹介と支援のお願いにあがることに致しました。大学総務と医学部同窓会事務に協力をお願いして、各地域の同窓会組織に、総会などの集まりがあれば出席させて欲しい旨の依頼発信を致しました。

二〇一八年内の開催予定と出席承諾のご返事を頂いたのは、北海道の大鵬会、札幌おとり会、八戸地域弘前大学同窓会、

学に多く送り出すことができるよう全力でサポートしていきたい。その一環として、現職高校教員の力量形成を目的に毎年実施している北海道教育セミナーに加え、平成三十三年度からは北海道四プロツク(道央、道南、道北、道東)に各代表者を置き、大鵬会組織内並びに弘前大学との連絡体制の強化・充実を図ったところです。

本年が弘前大学の新たな飛躍に向けた重要な年と位置付け、北海道が誇る大学として今後とも進化し続けられることを心から祈念申し上げます。



【札幌おとり会】

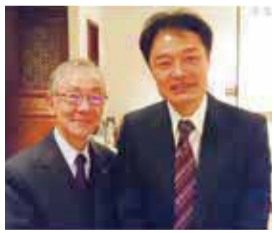


【大鵬会】



【医学部秋田同窓会】

水上浩哉先生(H8卒)による特別講演もありました



【医学部道央同窓会】高野環先生(H3卒)の講演もありました



【医学部岩手同窓会】小笠原邦昭先生(S59卒)と櫻庭美先生(H2卒)のお祝いも兼ね、玉木光子先生(S62卒)の素敵な演奏もありました



【医学部首都圏同窓会】外務省医務官として活躍の仲本光一先生(S58卒)にお会いしました



【医学部道南同窓会】佐藤功先生(S51卒)のご退職祝いも兼ねておりました

に、十一月十七日の沖繩鵬桜会まで九地域十一同窓会を廻つて参りました。八戸と首都圏には佐藤敬学長も出席され、大鵬会には学長代理として伊藤藤成治理事が出席されました。また全てに大学総務より一名(三浦部長、佐藤課長、浅利課長のいずれか)が同行して、事業説明と弘前大学の現在のトピックなど、資料を配付し説明も致しました。お土産に持参した弘前大学酒は好評でした。

嬉しかったのは、卒業して各地域で活躍されている卒業生の皆さんが、青春時代の一時期を過ごした弘前を懐かしみ、弘前の街と母校に熱い思いを寄せていらつしやる事でした。札幌おとり会では旧制弘前高校時代の校歌や寮歌、学生歌などを、肩を組んで全員で合唱するという、私には初めての経験でありました。各会の会長先生、事務局の先生方には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。今年から二〇二〇年にかけて、まだ訪れていない地域への訪問を継続する予定です。

天文同好会 COSMO

写真家 置田 貴代美
（平成12年 理学部地球科学科卒）

星を見るより飲みに行くとか、プレハブ小屋で話すとか、遊びにいくとか多かった気がするが、学祭や理学部（現理工学部一号館）屋上での太陽の黒点観測はやっぱり天文サークルだった。

お昼の晴れた日、理学部屋上にあがると太陽観測班（だったかな？）のYさんが屈折望遠鏡を設置して投影板で黒点を観測していた。晴れたら観測なので、行けばYさんと誰かしらいる訳で、お昼を持って屋上に行って、そこにいるメンバーと岩木山を望みながら話に花を咲かせるのが常だった。

あとは記憶に残っているのが、学祭来場者にプレゼントする、印刷紙に焼いたモノクロの星の写真のしおりを作成。秋も深まった頃に、プレハブ小屋暗室の赤いランプの下、印刷紙焼き付けから水洗まで皆で手分けして、ひたすらしおりを作った。今も私の手もとにはそのときのしおりがあつて、岩木山のふもとに見られていたヘルボップ彗星が写ったやつだ。

「吉田基金」TOEIC賞授与式



年の太田凛花さんが九六五点、農学生命科学部四年の澤口裕真さんが九二〇点のスコアで授賞し、平成三十一年一月十八日に授与式が行われました。

同窓会では、平成十四年より弘前大学の国際化教育（学生の支援を目的として、TOEICの高得点者（九九〇点満点中九〇〇点以上）を対象とし、審査の上で賞状と副賞を授与しています。本年度は、人文学部四

留学生の声

私の日本の印象



農学生命科学部2年
チャン ティ タン (ベトナム)

日本は世界中に、経済面や技術面において発展している国だとよく知られています。日本の農業

に関する技術を学び、母国のベトナムに還元すると言ふ夢を持ち私は日本に来ました。日本に来る前に日本の

ことについて調べました。一つ目は日本には自然災害が多いということ。そしてその自然災害に対して、日本人は強い意志を持って、災害を乗り越えてきたということ。幸いにも、日本に住んでから大きな災害を私はまだ経験してはいません。

祭りに参加することで市民の人の中に溶け込み、本場の文化を体験していると感じました。特に盛岡市のさんさ踊りや弘前ねぶた祭りに参加したときは、太鼓の音や通りの景色、祭りの山車など、まるで日本の昔の世界に迷い込んだみたいでした。

役職	氏名	所属
名誉顧問	吉田 豊	弘前大学元学長
顧問	遠藤 正彦	弘前大学前学長
顧問	佐藤 敬	弘前大学学長
顧問	三上 翼	農学生命科学部同窓会顧問
会長	西澤 一治	医学部医学科副会長理事
副会長	岡井 眞	人文学部同窓会会長
副会長	千葉 信行	理工学部同樹会会長
理事	上田 敏雄	文理学部卒業生代表
理事	建部 礼仁	人文学部同窓会副会長
理事	相馬 正栄	教育学部同窓会副会長
理事	工藤 睦男	教育学部同窓会副会長
理事	澤田 美彦	医学部医学科副会長
理事	小山内 暢	医学部保健学科さくら会会長
理事	千葉 満	医学部保健学科さくら会副会長
理事	山上 佳男	理工学部同樹会副会長
理事	戸 洋次	農学生命科学部同窓会副会長
理事	熊谷 幸一	農学生命科学部同窓会副会長
理事	小笠原 潤	人文学部同窓会副会長
監事	糠塚 いそし	理工学部同樹会副会長

1. 収入の部	平成29年度予算額	平成29年度決算額
前年度繰越分	2,639,426	2,639,426
同窓会費		
人文学部同窓会	185,500	185,500
教育学部同窓会	119,000	119,000
医学部医学科副会長	78,400	78,400
医学部保健学科さくら会	140,000	140,000
理工学部同樹会	252,000	252,000
農学生命科学部同窓会	150,500	150,500
預金決算利息	40	26
計	3,564,866	3,564,852

1. 収入の部	平成29年度決算額	平成30年度予算額
前年度繰越分	2,639,426	2,757,437
同窓会費		
人文学部同窓会	185,500	185,500
教育学部同窓会	119,000	119,000
医学部医学科副会長	78,400	78,400
医学部保健学科さくら会	140,000	140,000
理工学部同樹会	252,000	252,000
農学生命科学部同窓会	150,500	150,500
預金決算利息等	26	30
計	3,564,852	3,682,867

1. 事業内容	事業費計
(1) 印刷費	390,000円
(2) 会報20号	299,657円
(3) 役員費	50,000円
(4) 旅費	7,000円
(5) 通信費	6,000円
(6) 消耗品費	3,000円
(7) 雑費	30,000円
(8) 70周年記念事業関係	50,000円
事業費計	835,657円

1. 収入の部	平成29年度予算額	平成29年度決算額
前年度繰越分	2,000,083	2,000,083
預金決算利息	40	16
計	2,000,123	2,000,099

会報編集委員名簿

委員長 一條 健司	副委員長 濱田 茂樹	委員 中坪 勝	委員 澤田 真一
委員 對馬 浩二	委員 田村 一朗	委員 千葉 満	委員 菅田 穂子
委員 津田 良司	委員 工藤 睦男	委員 伊森 英明	委員 伊森 英明

弘前大学同窓会事務局
TEL 0172(3639)3490
FAX 0172(3639)2132
mailto:jm3490@hirosaki-u.ac.jp

<http://www.hirosaki-u.ac.jp/information/alumni.html>

編集後記

いよいよ二〇一九年に本学創立七十周年を迎える。佐藤学長と遠藤会長からのメッセージ、各学部コーナーの記事、地域同窓会の様子等が、在学生、教職員、同窓生各位の機微に触れ、その結果集力で記念式典や記念事業募金等が盛り上がることを期待。

◇今号で創刊から二十年を迎えた本紙。多くの方々に支えられ発行を継続できたことに、先達への敬意と関係各位への感謝の念を禁じ得ない。人に例えれば大人の仲間入りの節目。二十一年目の次号は装いを新たに予定。さてどんな装いか。